

第1回 国道41号片掛地区 法面崩落対策検討委員会(仮称)

令和2年4月16日(木)

**北陸地方整備局
富山河川国道事務所**

1. 被災概要

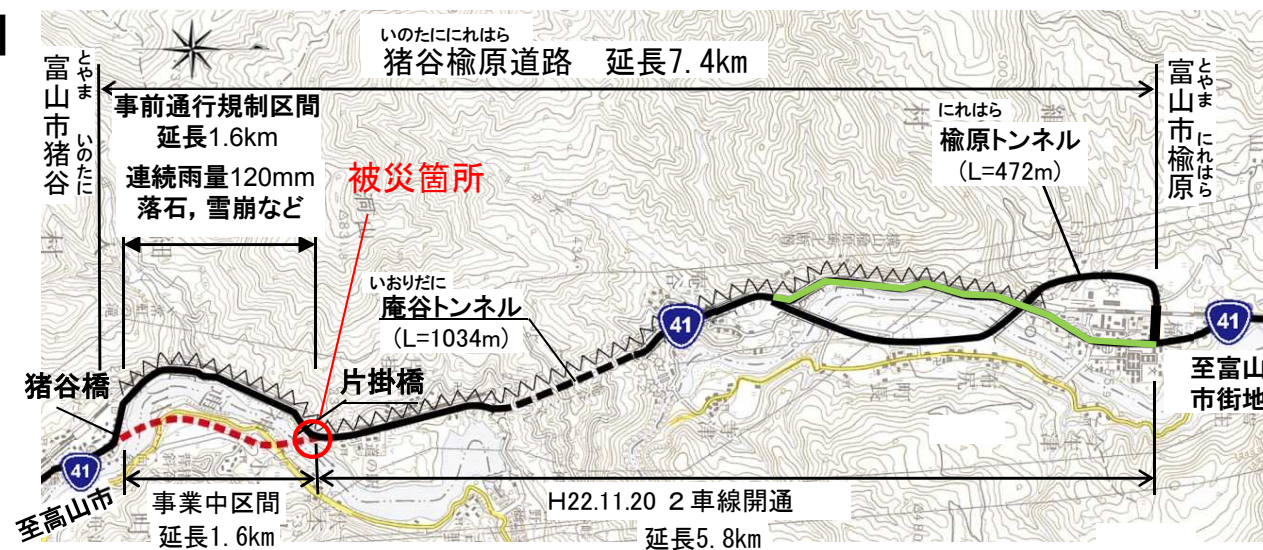
2. 応急復旧の状況

3. 今後の進め方

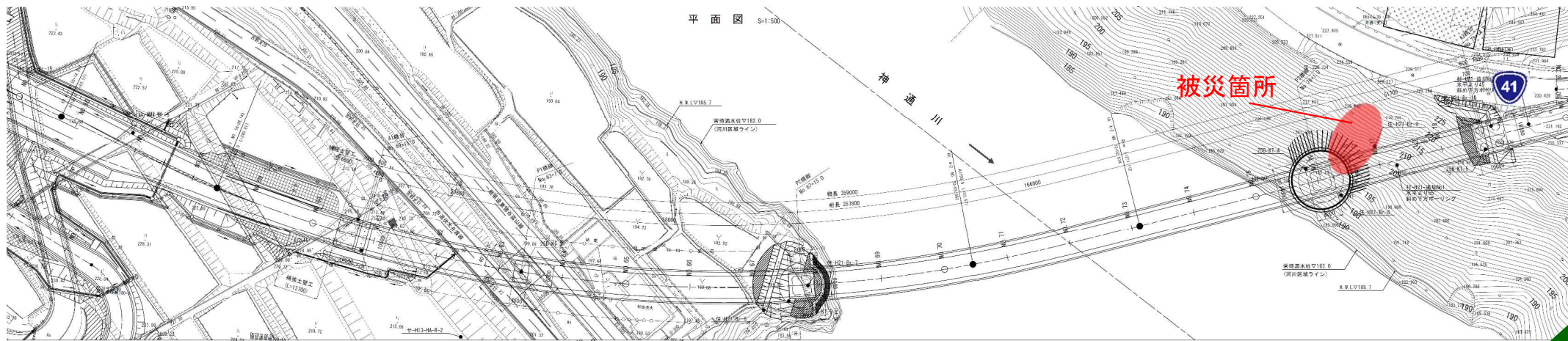
1. 被災概要

■広域位置図

■位置図

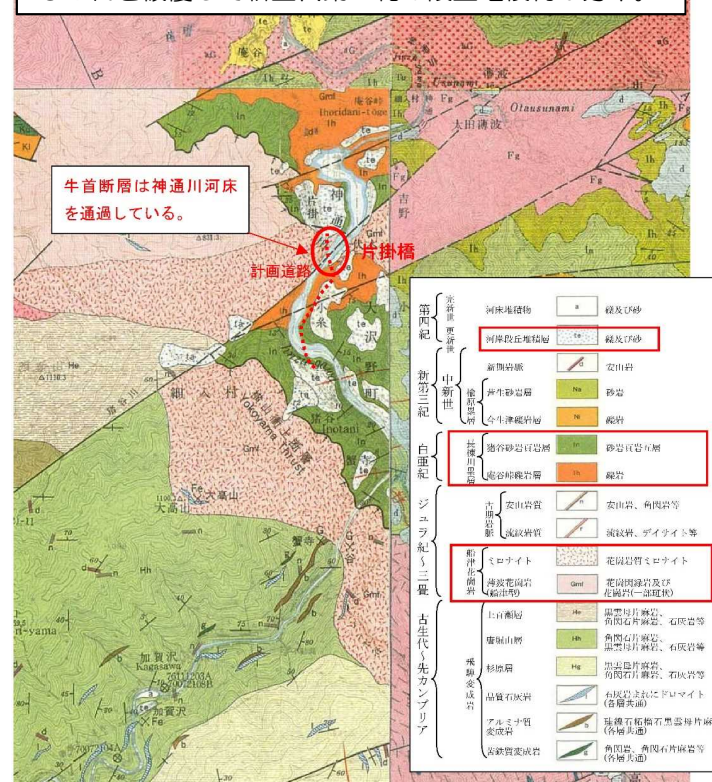


■ 平面图



■片掛地区周辺の地質図

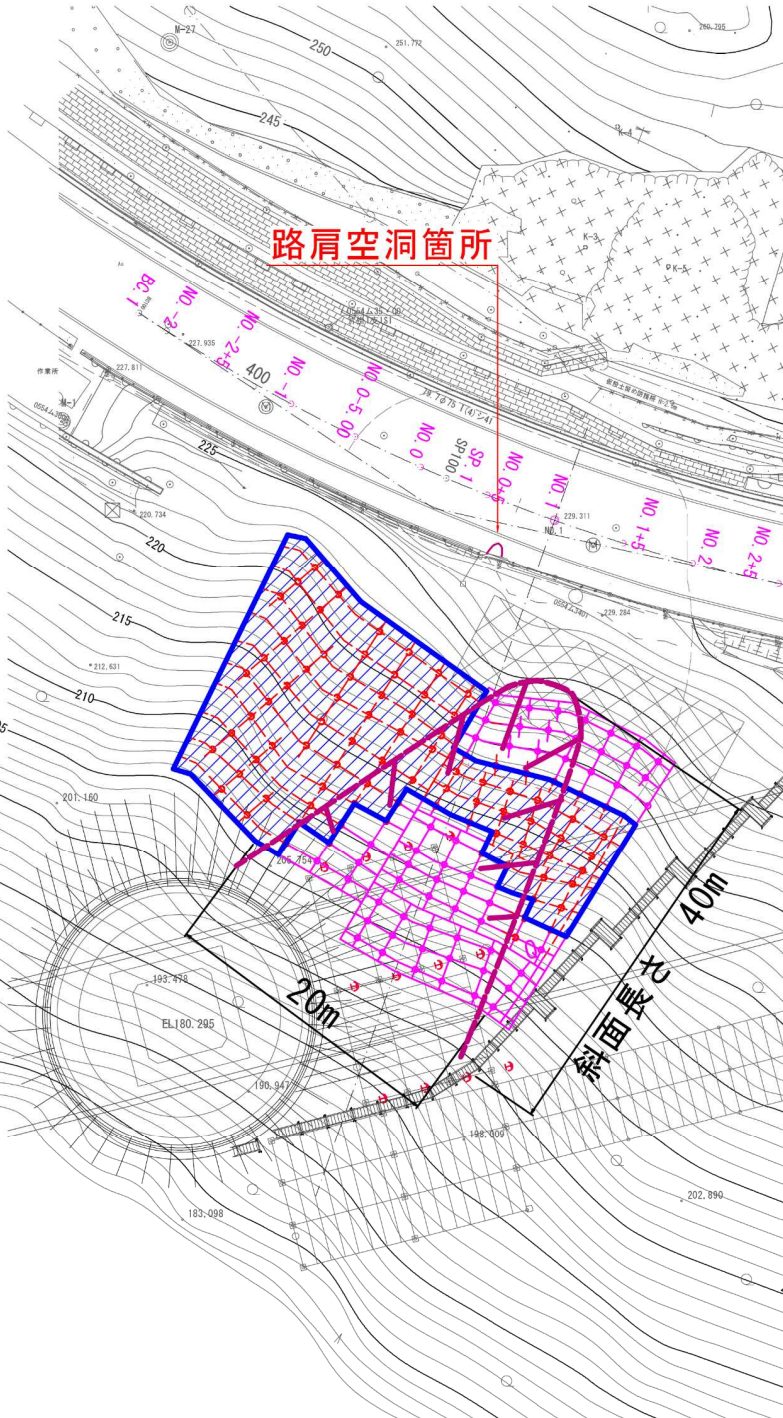
- 基盤岩は飛騨新期深成岩類に属する花崗岩類。
- これを被覆して新生代第四紀の段丘堆積物が分布。



1/50,000 地形図「八尾」「白木峰」「五百石」「東茂住」

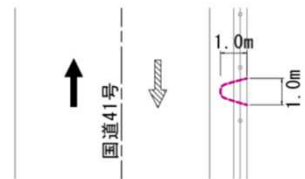
1. 被災概要

【被災状況】



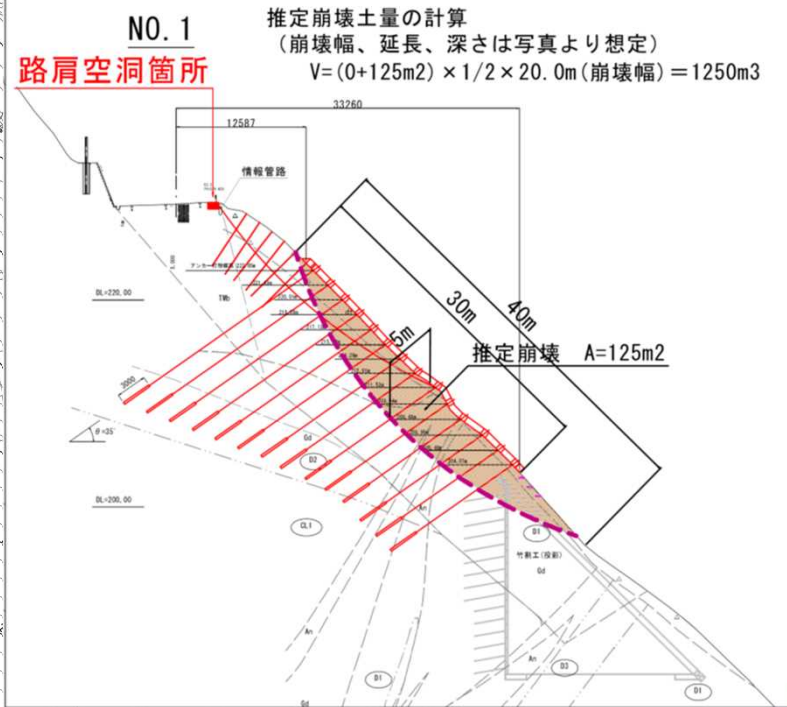
路肩空洞状況

路肩空洞状況



路肩空洞形状

道路縦断延長 L=1.0m
道路横断延長 L=1.0m
垂直深さ L=0.6m



1. 被災概要

【現況の計測状況 (2020.4.14現在)】

- 伸縮計No.1～No.3(以上、既設),No.8～No.10,No.13,No.14(以上、新設)
- 傾斜計K-1,K-2による監視
- 垂直伸縮計No.11,No.12(以上、新設)による監視
- パイプ歪計H30-S1及びH30-S3(以上、既設),R2-BV1及びR2-BV2 (以上、新設)による監視
- 雨量計による監視

■現況監視体制

安全管理基準値

○伸縮計

No.1～No.3,No.8～No.14

2mm/時間 回転灯点灯 (黄色)

4mm/時間 回転灯点灯 (赤色)

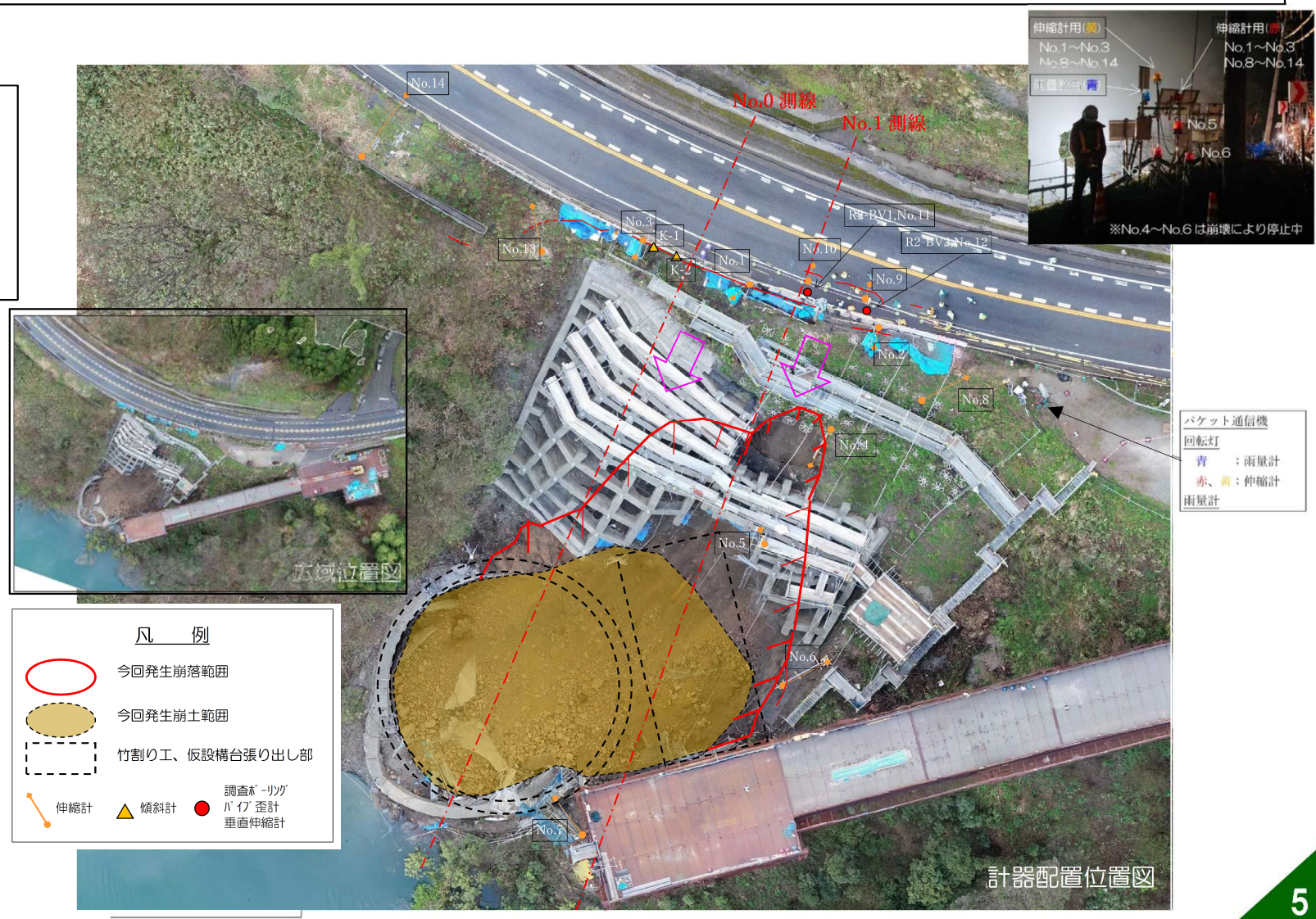
伸縮計、傾斜計、パイプ歪計

⇒大きな変状は認められない

4/10以降の雨量

⇒時間最大5.5mm/h

⇒総雨量33.0mm



2. 応急復旧の状況

2. 応急復旧の方法

【応急組立橋による交通確保】

■応急組立橋の概要

機械の機能

河川の増水、地震、土砂崩等の災害で橋梁が使用できなくなった場合に、早期に交通路を確保するための仮橋として使用します。

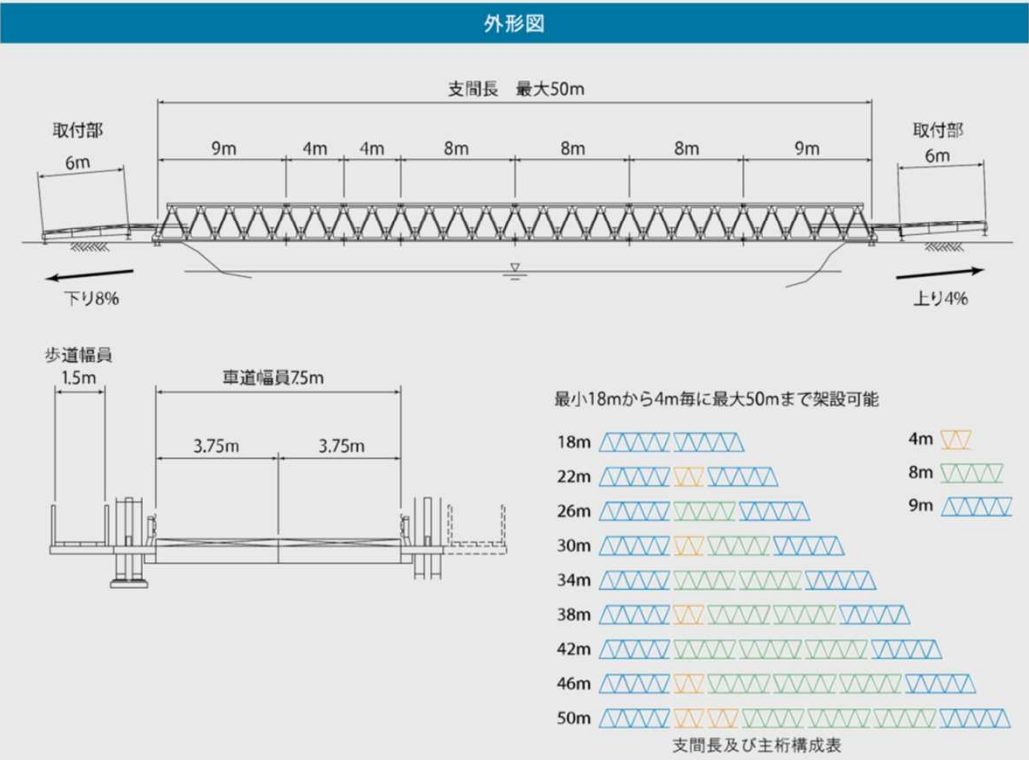
全ての部材がトラックとトレーラに積載できるので、トレーラが通行可能であればどこにでも運搬できます。

最小橋長18mから最大50m（最大支間長50m）まで4m毎に橋の長さを変えることができるので、現場条件に応じて設置することができます。

「トラスガーダ形式」に比べて部材の数が少ないため、部材管理が容易です。



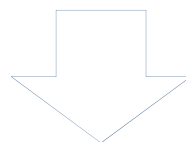
主 要 諸 元		
形式	組立式ボニーレントラス下路橋	許容たわみ度 L/400以下
支間長	支間長50m 取付部：6m×上下 全長62m	許容応力度 道路橋示方書の25%増し
最大部材寸法	長さ9.6m×幅2.6m×高さ0.9m	架設工法 トラッククレーンによる架設工法及び手延機による送り出し工法
重量（主桁）	9,329kg	最短組立期間 クレーンによる一括架設工法：約30時間 クレーンによるベント架設工法：約46時間 ※支間長50m 手延機による送り出し架設工法：約40時間
道路規格	第3種 第2級相当	
幅員構成	車道：7.5m 歩道：1.5m	
設計荷重	B活荷重	



3. 今後の進め方

■委員会での検討内容(案)

第1回 ・被災状況と応急復旧、今後の進め方



第2回以降 ・崩落箇所の方面对策方法
・工事中新橋の対応方針